

研究テーマ

鑑賞と表現の関連を図り、音楽を形づくっている要素への感受性を高める指導の工夫

提案者 波多江 慶 太

I 研究テーマについて

1 テーマ設定の理由

本研究で言う「鑑賞と表現の関連」とは、①鑑賞の活動において、表現から感じ取ったことや歌ったり演奏したりしたことを生かして、音楽を味わって聴くようにすること、②表現の活動において、鑑賞から感じ取ったことや聴き取ったことを生かして、歌い方や演奏の仕方などを工夫することである。また、「音楽を形づくっている要素への感受性を高める」とは、音楽を形づくっている要素に注目しながら鑑賞や表現の活動を行い、感じ取ったことを基に、観点に対する意識をより高めながら鑑賞したり、よりよい表現の工夫を考えたりすることができることである。



このような児童像を目指すことになったのは、昨年までの実践が基になっている。これまでは、児童の創造性を高めるという目標の下、自分の考えた表現の工夫を器楽や音楽づくりに取り入れる活動を行ってきた。自分の工夫が音に反映される楽しさを味わうことで、児童は自信をもって表現に取り組むことができた。鑑賞では、活動を繰り返していくうちに、音色や旋律などの音楽を形づくっている要素に気付くことができるようになった。その反面、鑑賞の学習で、音楽を形づくっている要素を感じ取ることができても、表現の学習の中に同じ要素が組み込まれていることに気付かないという実態が見られた。

児童の感受性を高めるためには、鑑賞を通して音楽を形づくっている要素を感じ取ることがもちろんのこと、表現の中でもそうした要素を感じ取ったり、意識したりして演奏することが重要であると考えている。

そこで、本実践では、鑑賞と表現を関連付けた活動を行うことで、音楽を形づくっている要素への感受性を高めていくようにする。

そのために、本実践では、①複数の楽曲を聴き比べる「比較鑑賞」を取り入れること、②鑑賞で感じ取った要素を表現の中で試すことを手立てとし指導していく。活動の中に比較を取り入れることで、音楽を形づくっている要素による特徴がより明確になり、児童がその特徴を感じ取りやすくなると考える。また、鑑賞で学習した要素を表現に生かすことで、児童はそのよさを体験することができると思う。

以上のことから、本研究テーマで研究を進めていく。

2 テーマにせまるための方策

— 視 点 —

複数の楽曲の共通点や相違点に気付くような指導の工夫をすることにより、音楽を形づくっている要素への感受性を高めることができるようにする。

〈手立て〉

- (1) 複数の楽曲の共通点や相違点に気付くように、楽曲を聴き比べる「比較鑑賞」を取り入れる。その際、問いと答え、わらべうたの構成音を観点に分類できるようにしていく。
- (2) 複数の楽曲の共通点や相違点に気付くように、様々な楽曲から聴き取った「ことば」「遊び(体の動き)」「歌」を実際に試す。それを基に、わらべうたとそうではない楽曲の表現方法を比較できるようにしていく。

